

平成28年度 第7回用瀬地域振興会議 議事概要

【開催日時】

平成29年1月20日（金）午後1時30分～午後3時50分

【開催場所】

用瀬町総合支所 3階会議室

【参加者】

出席委員 谷村萬吉、西川功美、平井育子、谷口芳幸、大家繁博、谷本由美子、西村繁榮、岸本美鈴、山下ゆかり、中村史生、亀谷幸子、福山裕正 以上12名（敬称略）

関係課 なし

事務局 田中用瀬町総合支所長、沖田副支所長、坂本産業建設課長、谷口市民福祉課長、中村地域振興課課長補佐、金谷用瀬人権文化センター所長、金谷地域振興課主幹

傍聴者 3名

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議題・報告事項

（1）地域内情報伝達設備の整備について

（事務局 資料に基づき説明）

（会長）

説明では、防災無線が使えないとのこと。

（西村）

青谷が運用とのことだが、現在の状況はどうか？

（事務局）

H29からなので、まだ運用していない。

（平井）

助成金は1回限りとのことだが上限はあるのか？

(事務局)

設定する方向で検討しております。

(平井)

もっともお金がかかるのは地域無線方式なのか？宅内はどうなのか。

(岡本)

協働推進課が補助金の窓口となる予定です。

無線方式は、気高、青谷で導入している集落があります。現在の受信機が使えるかどうかというのとは分からない。業者によって優先よりも安価になるというところもある。

(西川)

これと防災無線との関係はどうなのか。兼ねるのか。

(事務局)

別のものです。防災無線は基本は屋外スピーカになります。

(久能)

現在の設備は合併の経過措置で使用しているが、市で電波は1つにしないといけない。

防災無線についてはデジタル化にする考えである。福部と国府とがデジタル化しており、青谷が最も古いため最初に整備をしている。

一体化することで、地域情報を流すことができなくなるのではとのことから、それに代わる伝達方法を検討し、案を提示したところ。H29から運用する考えです。音声告知端末についてはすでに国府町で運用されています。地域や自治会や組合を作って設備を導入して、それを支所や学校等が利用させていただいて国府のエリアの情報を流しています。危機管理の情報については、この音声告知端末にも流れるようになっているようです。

(谷村)

国府のCATVの加入率は？

(久能)

約50%です。

(谷村)

加入していない方々へはどのような形で情報発信しているのか。

(久能)

市報や、CATV、チラシや回覧板などを活用している。

(谷村)

実態がどのように感じているのかももっと研究しなければいけない。

(事務局)

時代によって機会が進歩している。今の人はスマホにメールで配信される。

(谷村)

CATVの加入率向上への対策はないのか

(山根)

加入率アップの対策として、機器の加入が入りやすくするくらい。CATVに加入金の減額の措置を考えてもらうよう要請している。加入金について、市の助成はない。

(久能)

端末装置には地区での補助制度を考えていますが、CATV加入はそれぞれの家庭でお願いをしております。

(平井)

CATVは機器の助成をしてもらっても月額料金が必要であれば、100%は難しいのではないかと。

(事務局)

告知音声端末の利用料金は100円です。

(平井)

有線放送を使っているが、設備が古くなってきているので不安。他の市町村の状況等、もう少し具体的に説明をしてもらいたい。

(岡本)

1、2、3の違いは、1はすでに鳥取市全域に整備されているので加入するだけで、市の情報も得ることが出来る。2、3は整備された地域に限定されるし、支所からはできなくなる。あくまで地域で整備をするもので、行政で情報を発信するために整備するものではありません。

(平井)

現在支所から流れている情報は流せないということか。

(岡本)

流せる手段があるとすれば1の音声告知端末だけです。

(平井)

私たちが欲しいのは支所からの情報も含めてほしいので、そこがどうなるかを教えていただかないと。

(岡本)

次回説明したいと思います。

(谷口)

防災無線は、風や雨の災害時に危機管理ということで流すが、そういうおそれがあるから個人の家にも流してほしい。そうすると1案しかないということか。外は聞きにくい場合もある。

(岡本)

危機管理課との協議の中で、1については支所にも機器を置いて放送することは可能である。

2, 3は自主防災には戸別受信機が配布されるので、それを聞いてから各集落で流してもらえない。

(谷村)

用瀬が欲しいのは、支所からの放送もそうだが、3つ地区のまちづくり協議会が今まで通り地域情報を発信できることである。それぞれに放送の拠点は作れるのか。

(山根)

1の方式では、地区単位での放送が可能です。

(谷村)

4か所に放送拠点があれば今の状況と同じとなる。ただ、加入率が100%ではないのが。

(岡本)

1はCATVで月額500円、告知端末は月額100円の使用料が発生します。

(亀谷)

CATVも払って、告知端末も別に使用料を払ってということになるのか。

(谷村)

どれぐらいの放送が見られるのか。

(山根)

通常の民法派にCATVオリジナル番組です。

月額100円の使用料は、音声告知端末以外にも携帯電話への配信なども選べるようになっています。どの手段であっても100円をくださいということです。また改めて説明させていただきます。

(谷村)

いつまでに移行する目標なのか

(久能)

防災無線のデジタル化は、H31～32までに進める方針であり、この助成制度はデジタル移行後1～2年までは残す予定です。

(福山)

助成率は10/10ですか

(久能)

それはないと思う。上限を設ける予定です。

(西川)

これはどのように進めるのか。

(久能)

ご意見をいただいて、最終的には議会での決定を受けてになる。

(谷村)

自治会もあるので、そこでも検討いただきながら、最終的には地域振興会議にて決めていくことになるのか。

(事務局)

制度として確定した時には、改めて制度の説明をして、対応としては各集落が主体となってどう取り組んでいくかということになると思います。行政としてこうしていきましょうという方針ではありません。今後各地区、自治会としてどのようにしていくのかということになるのかと思います。

(谷村)

行政だけではなくまち協の関係もあるので、地区ではなく用瀬1本で自治会に情報を流しながら意見を聞く機会が必要だと思いますし、最終的には地域振興会議で本庁から資料をいただきながら方向を出すということではないかと思う。

(2) 教育委員会分室の執務場所等の変更について

(谷村)

各講座、自主的なグループ団体など以前の中央公民館で管理をしていた活動などは、支所で分室が対応するというのか。

(事務局)

以前の中央公民館の業務は、今は分室が引き継いでいるので、支所に移動しても対応します。

(3) 地域の課題・問題点について

◆バスの路線再編を含めた公共交通の維持と利用促進について

(谷村)

サロンもあるところとないところがあるが。

(事務局)

全集落ではないがサロンを開催しているところに聴き取りに行ったということです。

(谷村)

どうしても遠隔地のほうが問題があると思う。

(事務局)

この1年間全然使われていないルートもある。

(西村)

生活交通会議に出ているが、どこでも悩みは同じ。利用されないので廃止するところが出

てきている。アンケートを取れば意見は千差万別だと思う。今は運転が出来るからよいが、将来的にはバス路線がなくなると困るということをどこの方も思っておられる。どうして維持していくかということが大事だと思う。利用しないから通らないとのことだが。

比較的、佐治は利用率が高いと思う。

(谷村)

無くなると困るという心配があるが、なかなか乗らない。

高齢者の事故問題に関して、免許を返上した時の制度があるが、定期の制度もなかなか利用されない。

(西村)

なかなか難しい会議です。

(谷村)

せっかく跨線橋を整備したので、バス路線は何とか喜んで使えるものと思う。必要なものだと思う。

(西村)

各集落で具体的に協議していかないと、前向きにいかないとと思う。

(事務局)

昨年11～12月にサロン等に出向いたりして聴き取りをした。江波に変える便が昼ごろにないとか、支所まで上がる便も欲しいということなど様々な要望を交通政策課やバス会社と協議し、次回の生活交通会議に諮った中で、見直しの結論が出て向かっていくことになる。定期券の有効活用など、直接で見て行って説明をしながら、常に情報を得ながら利用者を増やすように活動していきたい。

(谷村)

一人でも多くという取り組みをしてほしい。時間的なものやルートなど具体的に増やし行ってほしい。一気に変わるのは難しい。

(亀谷)

TVを見ていたらダイヤを設けずに各家庭から電話で予約をして、総合的に予約を集めてダイヤを日によって変える対応をしているという過疎地域の取り組みを見た。このダイヤでなくても使う人に寄り添うやり方もあるのでは。

(事務局)

登録制にしてみる考えもある。

(岸本)

高齢者の免許証返納の情報を集めて、その方に乗り合いバスの利用を説明にいつて知らせるサービスが必要だと思う。

(4) 総合支所整備(耐震化)の推進について

(谷村)

9月の補正予算に計上との説明であった。この件は2月10日の会長会でも状況について報告したいと思う。

(事務局)

何か要望や意見があればお聞かせいただければと思う。

(谷村)

概略は出ているが、これから検討するというので。今の時点で意見、要望があれば。郷土資料館はどうするのか。

(事務局)

今は図書館が対応しているが、無人となつては中に重要なものが入っているので。来週文化財課とやまびこ館の学芸員が来られるとのこと。決まっていくこともあると思う。

(谷村)

図書館とは関連がある施設だと思う。皆さんの意見はどうでしょう。集約したほうがよいのでは。

(西川)

スペース的な問題があるのでは。

(事務局)

あのままの移転は不可能。図書館の跡地利用も絡んでくると思う。

(谷村)

数を減らす目標もあるので、難しいのでは。図書館と関連があると思うので、意見として受け取っていただければと思う。

(5) その他

特になし

4 地域振興への意見・提言（委員発表）

亀谷委員による発表

移住定住の推進に向けた子育て行政への提言について

- ・用瀬町での子育てについて
- ・若桜町の子育て支援について
- ・より多くの方が住みたい地域となるための子育て支援の課題について

中村委員による発表

郵便局の活動を通じた地域での取り組みについて

- ・郵便局と行政との連携事業について
- ・郵便局と地域との連携した取り組みについて

5 各課報告

事務局（資料などで説明）

地域振興課 行事予定、多文化交流とまちづくりシンポジウムについて説明
産業建設課 山歩き講座、流しびな行事について説明
市民福祉課 鳥取市ふれあい収集について説明

6 次回日程について

開催予定日 2月22日（水） 15時
会場については、用瀬町総合支所を予定

7 閉 会